

グリーン四国

No.1242
2023年
9月号

山地災害発生時の情報収集 及びICT測量勉強会の開催について

【詳細は2頁】



轟の滝（高知中部署管内）

目次

・山地災害発生時の情報収集 及び ICT測量勉強会の開催について	2
・石手川ダム自然と遊ぼうDAY!	3
・香川森林管理事務所との交流会を通して	4
・高知市で「夏休み親子お楽しみ工作」を実施	5
・ICT現地見学会を実施	6
・吉良川公民館で夏休みの森林・木工教室	6
・ワンツーツリーフォレスト	7
・津野町3校合同森林・木工教室を開催	9
・夏休みに小学校6校で森林・木工教室を開催	9
・基礎B：森林の育成「業務研修を受講して」	11
・個性あふれる森林「白髪山八反奈路」	12



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2052
FAX 088-821-4834
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

山地災害発生時の情報収集 及びICT測量勉強会の開催について



〈局治山課〉
〈局森林整備課〉

近年、局地的な大雨や短時間豪雨の増加により、全国で自然災害が大規模、多発化しています。そのような中、四国森林管理局管内においては、平成30年7月豪雨以降、大規模な山地災害は発生していませんが、山地災害発生時の迅速な対応等のため、今回、山地災害発生時の情報収集や、近年、取組が進められているICT測量（災害発生時に、迅速かつ効率的に調査を実施するためには、ICTの活用は有効手段となっている。）について技術を習得し、技術者の育成を図ることを目的として、「山地災害発生時の情報収集及びICT測量勉強会」を令和5年6月21・22日の2日間の日程で開催しました。

参加者は、局署の職員46名・県職員6名・徳島大学教授と同大学生の2名の計54名で、多くの参加者が日頃災害等に携わっていることから熱心に受講していました。

1日目の前半は、国土防災技術(株)による「ICT測量についてー災害時の対応についてー」そもそもICT測量とは…何？など、基本的な講義から始まり、ICT測量のメリットとして、正確な測量・設計・加工品質の向上、迅速なデータ収集・進捗管理の迅速化、コスト及び測量人員の削減、GISなどの情報システムとの統合による効果的な分析、可視化が可能、設計施工の最適化が図られる、危険な場所での測量作業、事故リスクの低減で安全性の向上など判りやすく説明して頂きました。その後、実際にパソコンを操作し、微地形表現図・断面図の作成、オルソフォトからの情報の抽出などの演習を行い、参加者は、スタッフのサポートを受け試行錯誤しながら操作していました。

後半は、e s r i j a p a n (株)による、豪雨等により被災した現場

を写真撮影し必要な情報を入力し、このデータを林野庁及び局署等へいち早く共有することが可能となる「山地災害調査アプリ」の活用について」を受講し、各自持参した携帯端末を講師にアドバイスを受けながら操作していました。

2日目は、生憎の雨空模様であったため、前半は「山地災害調査アプリ端末を使つての演習」を急遽、局駐車場のスペースを利用し、周囲の写真を取りながら、データ入力等の演習を行いました。

後半は、前日に引き続き、ICT測量についてパソコンを使った演習を行うとともに、ICT測量で使用する機材を使ったデモンストラーションを行い、参加者の関心を集めていました。

2日間を通して、参加者からは「作業が不慣れなため、練習を重ね、実践段階でスムーズに使用出来るようにしたい」「災害発生時に」を使い迅速な対応に役立てたい」などの感想がありました。

四国森林管理局では、今後も職員 の災害調査技術の向上を目指して取り組み、災害発生時には、民国一体となって迅速な対応が出来るよう努めていきます。



石手川ダム自然と遊ぼうDAY!

〈愛媛森林管理署〉

石手川ダム水源地域ビジョン推進委員会が主催するイベント「自然と遊ぼうDAY!」が、7月28日、松山市の石手川ダム「せせらぎ公園」で開催されました。

イベントは、自然とのふれあいによる心身のリフレッシュや森林・ダムの重要性への理解を目的とした「森と湖に親しむ旬間」(7月21日～7月31日、国土交通省、農林水産省等の共催)の取組として毎年実施しています。

当日は、夏休み中の小学生とその家族19組39名が参加し、午前は、水生生物探検、木工品作製及び丸太切り体験、午後は、水難救助の講義・指導、最後に川遊びを行いました。



丸太切り体験

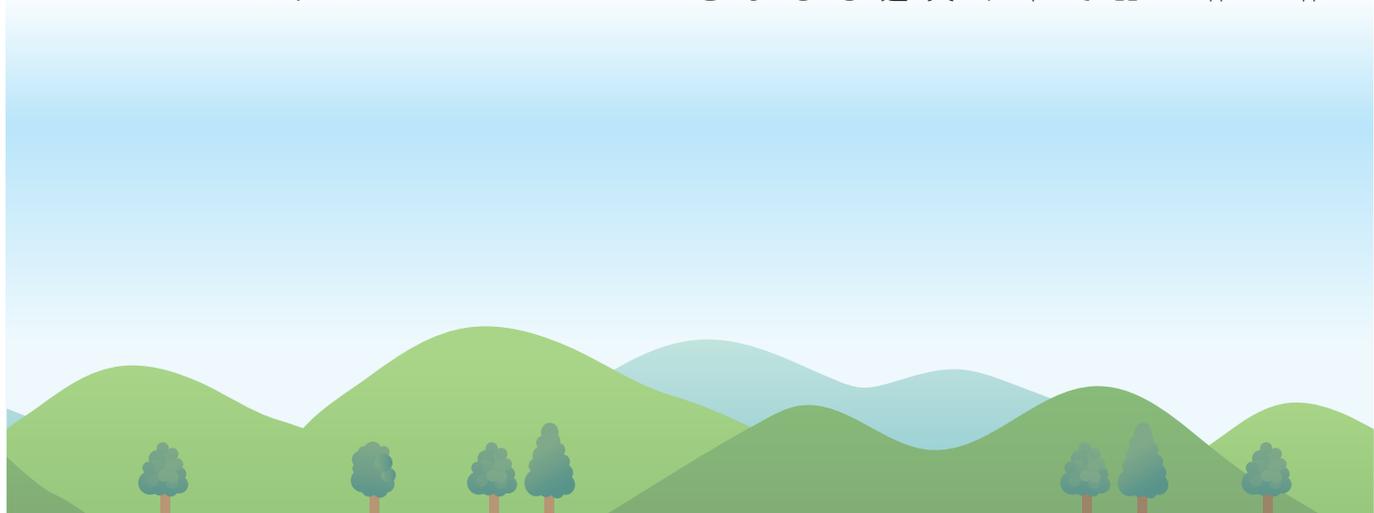


ペントミノ作製



ペントミノ

当署から署長はじめ8名が参加し、「ペントミノ」というボードゲーム作製や丸太切り体験を行いました。ペントミノ作製では親子で協力して作製し、各自、絵を描いたり、色を塗ったりして、個性的で素晴らしい作品を作っていました。丸太切り体験では、初めてノコギリを使い最初は不慣れでしたが少しするとコツを掴み初めて、暑い中汗を流しながら、笑顔で切っていました。切った後の達成感を得る子が多く、中には4回も参加する子がいるほどで昼休みでも大繁盛でした。このイベントを通して、少しでも子供たちが自然の良さに気づいてくれたら幸いです。



香川森林管理事務所との交流会を通して

〈四万十森林管理署〉

7月19日、20日の2日間、香川森林管理事務所との交流会を開催しました。

初日は、香川所管内の鷹山にある集約試験団地に行き、森林技術・支援センターの渡辺所長から単木保護や防護柵など、獣害対策の説明を受けました。この試験団地は令和2年に新たに開設されました。これまでの試験団地は遠いところにあることが課題でしたが、鷹山に集約試験団地が開設されたことにより、局や他署(所)からのアクセスもよくなりました。試験団地ではツリーシェルターが試行錯誤され、設置されている様子や試験団地入口の扉も倒れにくいように工夫されているのが見られました。当日は雨のため、全てを見ることはできませんでしたが、間近で試験団地を見ることができ、事前に草刈り等をしていただいた森林技術センター及び香川所に感謝申し上げます。

員だけの参加でコミュニケーションがとりやすく、仕事やプライベートなど、たくさんのお話をすることができました。

その後、飯野山に移動し3合目まで登りました。飯野山は年に4万人を超える登山者がいるとのことですが、また、飯野山には雨水の流れる谷がなく、雨が降ると登山道が荒れるため、「1日1石運動」という取り組みを行っているそうです。「1日1石運動」とは、登山道の入り口にビニール袋と砂が用意されており、登山者の方が登山をする前に袋に砂を詰め、3合目、5合目にあるカゴまで運ぶという仕組みで、登山道が崩れたときの復旧用資材を確保しています。このように登山者の方に協力してもらうことも効果的と感じるとともに、実際に「1日1石運動」を体験できてよかったです。

全体を通じて参加した職員からは「他署(所)へ出張する機会が少ないので貴重な経験になった」「いい時間を過ごせた」との感想がありました。

りました。

今回の交流会で、たくさんの方と話をすることで、当署が進めている「人的パイプづくり」ができるとともに、香川所の取り組みを通じ当署へ反映する部分にも気が付くことができ、とても意義あるものとなりました。今後も他署(所)との交流を深めることで参考となるものは持ち帰り当署に取り入れたいと考えています。



高知市で「夏休み親子お楽しみ工作」を実施

〈高知中部森林管理署〉

高知市総務部文化振興課より、高知市の公民館活動として夏休み中に子供達が親や異年齢の人たちとふれあい、もの作りを通して楽しく交流できる「世代間交流ふれあい事業」への協力依頼が高知中部森林管理署にあり、7月29日、高知市の初月（みかづき）ふれあいセンターにて、木とのふれあい、森林の働き等をテーマとして「夏休み親子お楽しみ工作」が企画され、当署から4名が講師として出席しました。

当日は9組の小学生（1年生～4年生）と保護者の合計21名の参加がありました。

最初に吉良康署長から開催の挨拶を行い、次に、齋藤公平主任森林整備官が木工品を制作する際の注意点を説明しました。また、初夏の暑さも相まって、室内でも熱中症対策として水分補給をしっかりとっていただくよう促し工作を開始しました。



今回の木工は、13×23センチ幅のスギ板にパーツを貼り付け、色付けしていく「森からの贈り物で楽しく作ろう！動物プレート」の作成に取り組みました。作業が開始されると子供達は各自自分たちが作成したい動物の木エキツを選んだり、周りに飾るドングリや枝などを選び木工品の完成を想像しながら親子で楽しみつつも、時折真剣な表情を見せ作業を進めていました。

同じ動物を作成してもどのような飾りにするのか、どういうタイトルで作っているのかは多様で、子供達の個性が溢れ出た良い作品が出来上がっていました。

木工用の接着剤が乾燥するまでの間は森林環境学習として、「森林の役割と大切さ」、「身近にある木の品物」等について勉強を行いました。



子供達は、木材生産現場の魚梁瀬スギ（樹齢250年・直径90センチ・樹高30メートル）を伐倒する映像を流した際には驚きの声を上げ、木を切るときは迫力を感じてくれたのかなと思われました。また、保護者も資料を見ながらうなずきつつ、真剣にその映像を見ていました。

完成した木工品は夏休みの宿題にもなるようで、丁寧につけた小さなドングリや枝など落とさないように気をつけて持ち帰りました。

後日、初月ふれあいセンターから、「普段高知市で暮らしていると、実際に森林とふれあったり、その恩恵を肌で感じることは少ないと思います。子供達にとっても、お家の方と、自然のものからものを作る体験ができ、楽しい時間が過ごせたことと思います」との感想のお手紙をいただきました。

今後、子供達が森林に対して興味を持ってくれるきっかけとなるような教室を開催し、地域や学校活動に積極的に協力していきたいと思えます。



ICT現地見学会を実施

〈四万十森林管理署〉

8月1日、四万十森林管理署管内の釣石山国有林2052林班においてICT現地見学会を開催しました。今回の見学会は、ICTを治山事業に採用することのメリット・デメリットを周知し、導入を考える機会につなげていただくため、ICTを活用した治山工事を実施中である釣石山国有林において実施したものです。

当日は、幡多林業事務所より3名、高知県山林協会中村支部より2名、四万十署より5名、受注者より7名の総勢17名が参加しました。清岡森林技術指導官の挨拶から始まり、岡上治山技術官の現場説明、岡総括治山技術官の林野庁における活用事例等の説明がありました。



現場説明の様子

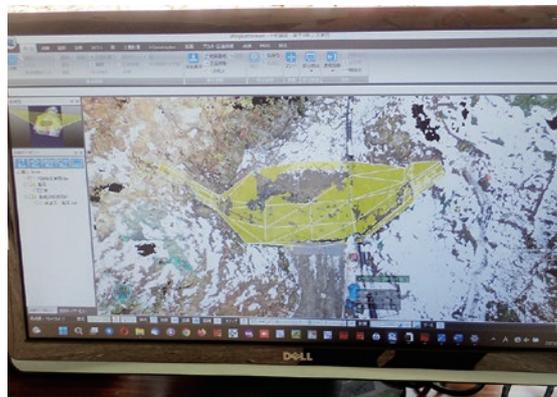
受注者からICT活用工事に関する会社方針の説明、ドローンによる測量で得た3Dデータの活用方法の説明後、実際にドローンを飛ばし、3次元起工測量の見学を行いました。

当日は降雨の心配もあった中、無事ドローンを飛ばすことが出来ました。ICTの活用には工事の省力化、施工者の熟練度を問わず正確な施工が出来る点等、様々なメリットがあります。実際、ドローンをを用いた測量は、人力での測量よりも遙かに効率的で少人数で行うことができます。

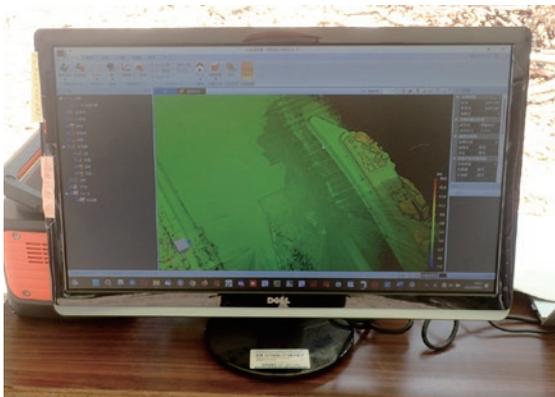
反面、現場の条件によっては、妨害する岩が多いためにレーザーが使えない、衛星との通信ができない等で導入が難しい場合がある点や、現状は多額の費用を必要とする点などのデメリットもあります。

釣石山も岩が多く、主にドローンの活用だけに絞り、ICTを導入しています。メリットとデメリットが共存しているという点で、見学会に適した現場であったといえます。当日は見学会とはいえ、最後の質問時間には、ICT導入の是非について議論が活発に行われました。このよう

な場を設けることで認識が深まり、導入が推進されることが考えられるため、当署では今後も研修会を行うていく方針です。



3次元起工測量データのモニター画像



吉良川公民館で夏休みの森林・木工教室

〈安芸森林管理署〉

安芸森林管理署では、毎年室戸市立吉良川公民館と共催で夏休み期間を活用して「放課後こども教室」の小学生に森林教室等を行っています。今年は8月3日に小学生と、その家族約20名を対象に、森林教室及び木工教室を開催しました。

まず森林教室では、「山の木を手入れせずに放置すると、どのようになるか?」ということを、紙芝居調のアニメーションで学習しました。

「放置した山には木々がうつそうとし、光が入らないことで草木が生えなくなり整備された森林が本来持っている保水力が低下し、洪水や土砂崩れが起きる」という小学生には少し難しい内容でしたが、こどもたちは真剣に聞き入っていました。

後半は、木工教室を行い、様々な木材を使った「壁掛け」や「キーホルダー」の作成を親子で挑戦してもらいました。

昨年までは、なるべく刃物を使わないよう実施していましたが、今年



森林教室の様子

は、カッターナイフやグルーガンなど小学生が扱うには少し難しい道具も用意し、職員や大人のアドバイスを受けながら、怪我もなく最後には自分たちだけの「壁掛け」や「キーホルダー」を作り上げました。また、早くも来年は「筆箱が作りたい」とリクエストも受けました。

安芸森林管理署では、これからも森林教室等の実施を通じて森林・林業の普及活動や水と緑の大切さなどのPR活動に取り組んで行きたいと考えています。



材料選び



木工作品の見本



上手にできました



大人も夢中です



真剣に作ってます



会場の様子

今回のイベントは、青少年の健全育成、山林・森林との親しみを持つきっかけの創出、また家族との触れ合いの場を提供することを目的に、小田深山渓谷に位置する森林を活用した、林業にまつわるアウトドアイベントです。

今回のイベントはコロナ前と同様の規模で、丸太切り体験等数多くのブースが出演し、イベント2日間の来場者数は約1,200人となりました。

ワンツーツリー フォレスト

〈愛媛森林管理署〉

8月19日、20日に愛媛県喜多郡内子町のソルファ・小田スキー場にて、第6回ワンツーツリーフォレストというイベントが開催されました。

愛媛森林管理署は、来場者が森林に少しでも興味を持ってもらうことと、森林の有する土砂災害防止機能や水源涵養機能（水質浄化等）を分かりやすく伝え、森林の大切さを伝えることを目的として出展し、木工教室や土壌浸透実験、森林自然探検隊を行いました。

木工教室では、来場者が木のプレートの木製昆虫キットや枝等を貼り付け、色塗りをする体験を実施しました。これは、初日から大盛況で2日目は用意していた作業スペースが足りず、急遽追加するほどの賑わいでした。参加した子供たちは楽しく熱心に取り組んで、職員が驚くほどの素晴らしい作品を作り上げました。



木工教室の様子



子供たちの作品

土壌浸透実験は、参加者に森林の有する土砂災害防止機能や水源涵養機能を分かりやすく伝えるため、木の生えてない土だけの模型と木の生えている模型を用意し、それぞれ上方から水を流し、土の流出の違いや下に溜まった水の濁りの違いを観察するものです。



土壌浸透実験の様子

参加者はそれらの違いを見ながら、当署職員の説明を熱心に聞いていました。

森林自然探検隊は、参加者に木のことを少しでも知ってもらい、興味を持ってもらうために、イベント会場近くの林道にて5種類（スギ、ヒノキ、アカマツ、ヤマウルシ、ミズメ）の樹木を紹介し、また、自然の中に目立たないように置かれたクワガタやカブトムシなどの木工のおもちゃを探し出す「カモフラージュ」というゲームを行いました。

樹木の紹介では、建築用材として使用されているスギ・ヒノキやミズメについて説明し、参加者は、ミズメの樹皮の匂いが湿布に似た独特な匂いと同じであることに驚いていました。

「カモフラージュ」というゲームでは、隠した側の職員がどこに何を隠したか分からなくなるのに、子供たちは10分程で全て見つけ出すことができ、その視野の広さに感心しました。



職員による樹木の紹介



木工のおもちゃを探す親子

当署は、今後もこのようなイベントに積極的に参加し、多くの方に森林・林業に興味を持ってもらえるよう、取り組んでいく予定です。

津野町3校合同森林・木工教室を開催

〈四万十森林管理署〉

8月31日に黒潮町にある幡多青少年の家において、津野町の葉山、精華、中央小学校の5年生41名を対象に森林・木工教室を開催しました。

今回、津野町教育委員会より3校合同自然体験型合宿の一環の中で、「海や川が森林ごどのように関わり合っていて、森林がどのような役割を持っているか等を説明いただきたい」との依頼を受け行ったものです。

前半は、プロジェクターを使って森林の持つ多面的機能や水循環などについて40分程の講義を行いました。多少難しい内容もありましたが、児童達は一生懸命メモを取るなど真剣に聞き入っていました。

後半は、四万十川森林ふれあい推進センターの協力を頂き、木工教室として様々な生物をかたどった木材や小枝、貝殻などを使った壁掛けづくりを行いました。手際よく作る子や、色々と工夫しながら考えて丁寧に仕上げる子など様々でしたが、各々が思い思いの個性豊かな作品に作り上げていました。

最後に児童代表から「森林の大切さがよく分かり、今後は森林を大切にしていきたい。」とお礼の言葉がありました。今回の取組により、森林への理解や興味が湧き身近なものとして児童達に感じ取ってもらえたのではないかと考えます。当署では、今後も機会を捉え森林環境教育を実施していきます。



夏休みに 小学校6校で 森林・木工教室を開催

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

このたび四万十市役所子育て支援課からの依頼で、四万十市内の八束小学校(8月3日)、下田小学校(8月4日)、蕨岡小学校(8月9日)、竹島小学校(8月10日)、中筋小学校(8月18日)、利岡小学校(8月23日)の計6校の放課後教室児童合計75名を対象にした森林・木工教室を小学校や地区の集会所で実施しました。

各6校では、1年生から6年生までの希望者となっていることから、はじめに、森林教室で「山(森林)からの贈り物」という紙芝居の教材を使って、森林の役割について学習を実施しました。

紙芝居のページをめくる中で、「私たちの生活のあらゆる場面で欠かせない木や木材は、家を建てるときの主な材料となっていますが、皆さんの身の回りで木が使われているものはどんなものがありますか?」と質問すると、「鉛筆、教科書、ノート、トイレットペーパーなど」と元気に

手を挙げて答えてくれました。そして、木や木材は私たちのくらしを豊かにしてくれる物であると同時に、森林が私たちの生活に無くてはならない色々な物を生み出し、清らかな豊かな水を育み、空気をきれいにしてくれるなど、大切なはたらきをしていてくれることを理解してもらいました。

続いて木工教室については、毎年違う木工工作やクラフトを提案していますが、今年は、四万十市のキャラクターである「アチチうなぎのしまっ子」の木工クラフトを児童達に作ってもらおうと、楽しく木の良さを知ってもらおうと考えました。なお、開催に際しては、「しまっ子」著作権を保有する、(株)LEPしまんと様のご承諾をいただき実施することができました。紙上をお借りしてお礼申し上げます。

実施に当たっては、まず、各児童に配布している製作キットを袋から出して手に取ってもらい、香りや手触りといった木製品特有の感覚に触れてもらいました。次に材料、道具、作り方や注意点等を説明した後、製作見本を参考に、当センターが準備したキット（ヒノキの板を切り抜いたもの）を基にポスターカラー等で

自由に色を塗り、いろいろな材料で飾りつけてから、ヒノキの角材で作った台座に接着剤で貼り付けてもらいました。

そして、各自、夏らしいカラフルな着色、貝殻や木片などの自然素材等で装飾や細工をするなどして完成させました。元のキットは形も下絵も全く同じものでしたが、児童達の発想で変化が加わり世界に一つだけの作品が次々とできあがりました。

おわりに、みんなに感想を聞くと、「四万十市のフシユカン（すみかん）」と「しまっ子」のことを知り、いろいろ作ることができてとっても楽しかったです。」と答えてくれました。

今回、夏休みの森林・木工教室を通して、友達と一緒に木を利用して作ったことが楽しい思い出となるでしょう。また、この作品が学校に、児童の夏休み自由研究の成果や工作物として提出されたり、その後、各家庭のリビングや玄関に飾られることで、木材に親しみを感じ、自然と木材の良さを認識してもらえるものと考えます。



中筋小、製作の様子



利岡小、沈下橋をバックに作品製作



蕨岡小、紙芝居の様子



八束小、できたよ



下田小、製作の様子



竹島小、壁掛けタイプ完成

基礎B：森林の育成

「業務研修を

受講して」

高知中部森林管理署

立石 将彬



8月21日から25日にかけて、四国森林管理局にて一般業務研修…基礎B「森林の育成」を受講しました。

本研修は業務を行っていく上で必須の造林、育林関連等に関する基礎的知識・技術を習得する目的で行われています。

初日は、近藤匡計画保全部長による講話があり、民有林も含めて再造林が進まない現状や課題に対する対策等を学び、確実に再造林される仕組みを作る重要性を感じました。

2日目は、森林整備課による造林事業の植付作業等の監督・検査の現地実習を行いました。

この実習では実際にコンパス測量や関数電卓を活用して事業が指定の範囲内で行われているのかの模擬検査を行いました。

実際に行って、監督・検査時のポイントを学ぶことができました。



3日目は、治山課による保安林制度の講義と、治山事業地の見学がありました。

現地は平成30年豪雨により被害を受けた箇所、土砂や倒木がどろくろいあるので工法が変わったり、地滑りを抑制するための工事があったりと事業規模の大きさや治山の重要性を再認識しました。



治山と聞くと森林育成にあまり関係ないように感じますが、保安林の関係や治山工事の後に植生を回復させる植栽を行ったりして土砂流出を防いだりすることもあるため意外と関係があることを今回新たに発見しました。

4日目は保全課と森林整備課による森林被害対策としてマツ枯れの対策とシカ防護ネットの設置状況について実際に現地を確認しました。

特にマツ枯れの原因となる松くい虫の被害は薬剤を散布したり直接木に注入したりして地道に被害を防除していくことが大切で、年々被害が減っているのもこのような継続した作業があったからだと感じました。



最終日は保全課から森林被害について、森林技術・支援センターからは森林の育成に関する技術開発の現状についての講話がありました。

2つの講話から森林施業では生物多様性にも配慮しつつも鳥獣害対策も継続して行っていく必要があり、そのための新たな意見や技術開発等は私たち職員からも積極的にアイデアを出していったりよりよい効果を得られる施業を作っていくことも大切だと思いました。

今回の研修を通して造林から治山のことまで幅広く勉強することが出来ました。今後、研修で行った業務に携わることになった際は教えていただいたことを基にしっかり対処できるように頑張っていきたいと思えます。

最後に本研修に関わっていただいた局担当職員の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。



個性あふれる森林 「白髪山八反奈路」

嶺北森林管理署長

榛田 力男



本年4月より嶺北森林管理署でお世話になっております榛田です。嶺北署の勤務は4年ぶりの回目です。職員の方々のご協力を得て、嶺北の山々を見ながら、日々の業務に取り組んでいます。

さて、当署管内の国有林の見どころとして、日本美しの森に選定された「土石山」、通称「JFOライン」(いの町道瓶ヶ森線)が通る「瓶ヶ森、伊予富士」などがありますが、今回は、私のお気に入りである白髪山の八反奈路はつたんなについて紹介させていただきます。



八反奈路の林内

四国のほぼ中央に位置する白髪山は、天然ヒノキが自生しており、古くは大正5年に学術参考保護林、平成2年に林木遺伝資源保存林に指定、更には、平成29年に日本森林学会による林業遺産に認定・登録され、歴史ある自然豊かな森林です。白髪山は山頂付近の「白骨林」として広く認知されていますが、白髪山南西面に位置する八反奈路と呼ばれる地形的にも比較的緩やかな特異な場所があります。

そこには、推定樹齢400年から600年生の根下がりヒノキと言われる群生地やシャクナゲをはじめとする多種多様な樹木や植物を観察することができます。根下がりヒノキは、古い切株の上に発芽した新芽が、古い切株を栄養源として成長し、長い年月をかけて地面へ根を下ろしたと考えられています。また、根下がりヒノキには、白髪山の蛇紋岩という地質が大きく影響していると言われ、この辺りは、蛇紋岩がむき出しになって土壌が薄く養分も少なく、養分が少ないところでも比較的強いヒノキが優先して生き残ったのではないかと考えられています。(蛇紋岩とは、通常地中深くにある別の岩石(カンラン石)が水分を含んで変質して地表に浮上した岩石で、鉄分が多く含まれている。)

八反奈路は、平成28年に高知県の

天然記念物に指定され、現在、本山町や地元環境団体等により、「八反奈路周遊コース」が設定されるなど整備されてきました。周遊コースの根下がりヒノキ33本には、1本毎に板が設置され、「根下がりの王様」、「輪廻転生」などの名前が付けられ、それぞれ個性の違う根下がりヒノキを観察できるとともに、フナヤケヤキなどの巨木も点在し楽しむことができます。また、八反奈路は、地質の関係もあり、標高1,100m付近を境に、ヒノキ林と落葉広葉樹林が線を引いたように分かれて



根下がりの王様



輪廻転生

成立しており、はっきりと分かれて隣合う様子を実際に観察できるのはアジアではここだけではないかと言われています。

このように、八反奈路はほぼ手つかずの天然林で、良好な状態で残されている生物多様性が高い貴重な森林です。一度はここへ足を踏み入れ、八反奈路の自然に癒やされるとともに、根下がりヒノキの成り立ちを自分の視点でじっくり観察してみたいかがでしょうか。



古株に生えた稚樹



蛇紋岩